

## 〈教育報告〉

# 健康・パートナーシップに関する意識変容 —住民と共に健康づくりを考える話し合いをとおして—

## Cognitive modification on health and partnership based on meeting between community people and health professions

合同臨地訓練第4チーム

畑 幸 宏, 石 渡 正 樹, 岡 知 宏, 横 森 喜久美  
森 千佳子, 藤 本 恵 子, 國 分 めぐみ, 久 村 真紀江  
西 野 幸 恵, 園 中 希依子

### I はじめに

これまで我々は、それぞれの職場で「地域の健康づくり」を目的にさまざまな保健活動を展開してきた。目指すものは「生き方としての健康」<sup>1)</sup>「住民参加をもとにした地域全体の健康」<sup>2)</sup>であるが、実際の活動は行政主導型の疾病対策になっていることが多く、住民・行政双方の考え方の変化が必要であると考え、

今回「地域づくり型保健活動」の展開を通しての「健康の概念」や「住民参加に対する意識」の変化について検討した。またこの2点に影響すると思われる「話し合いの方法」への理解も検討した。

### II 研究の枠組み

#### 1. 活動の展開

##### (1) 活動参加者

東京都世田谷区松沢地区に居住する住民で、健康教室修了者の自主グループを中心とした老人クラブ等（実58名、延べ123名）および北沢保健福祉センター職員、世田谷保健所職員、(財)世田谷区保健センター職員、松沢出張所職員、公衆衛生院学生。

##### (2) 地区の概況

世田谷区は、東京23区中、人口が最も多い。対象となった松沢地区は、高齢化率14.8%である。

##### (3) 展開方法

今回の取り組みは、世田谷区北沢保健福祉センターにおける健康づくりモデル事業「住民と行政が、自分たちの地区の健康づくりを、パートナーとして共に考えていこう」として行われた。この事業は、住民の意識が個人の健康から家族及び地域全体の健康づくりへと向けられることを目的とし、住民と行政とが共に考えていくために、地域づ

り型保健活動を用いた話し合いに取り組んだ（以下話し合い）。地域づくり型保健活動<sup>3)</sup>とは、「住民が理想とするより健康な暮らしの姿を確認し、その実現のために、必要な条件の整備をはかっていく」展開方法である。今回のテーマは「私たちの地域での病気や障害のない人の暮らしがどうあったらいいか」とした。

平成9年8月から10月までの間に、動機づけのための講演会を1回、話し合いを3回実施した。

#### 2. 研究方法

この話し合いを通して、①住民及び学生の「健康の概念」や「住民参加」に関する意識や認識の変化について、②これらに影響を与えると思われる「話し合いの方法」に対する理解について、③話し合いが促進されるための基盤条件について、検討した。

### III 調査・研究

#### 1. 住民の意識の変化

##### (1) 方法

① 参加者に対しての3回の話し合い前後における質問紙調査結果からの分析。

② 話し合いの内容をグループごとにテープレコーダーで記録し、住民の発言内容の変化を分析。なお分析にあたっては、「健康の捉え方」「話し合いへの参加態度」「話し合いの方法の理解」の3つの視点から検討した。

##### (2) 結果及び考察

###### ① 健康の概念について

質問紙調査によると、今回参加した住民のほとんどは話し合いを実施する前から「周囲の人が健康になるような街づくり」について、大切であると感じていた。

住民の発言内容の分析からは、1回目の話し合いでは「個人の健康」を中心とした発言が多かった。しかし2回目にスタッフから再度話し合いへの動機づけを行い、それをふまえて参加者がグループ内で自由に発言し合うことで、3回目には「老人を介護していても周囲に気兼ねなく息抜き

指導教官：岩永俊博, 畑 榮一, 鳩野洋子  
福島富士子, 寺田 宙

できるといい」など、周囲の健康も考えた発言へと変化した。

このことから、住民の健康の概念の広がりには話し合いの中で繰り返し動機づけを行うことや、グループメンバー間の相互作用が重要と考えた。

## ② 住民参加の捉え方について

質問紙調査の結果では、住民が話し合いに参加する理由は「誘われたから」が多かった。また話し合いの動機づけとなった「講演会」に出席した者は、継続して参加した割合が多かった。このことから「地域の健康づくりへの話し合い」への参加を促すためには、地域での住民同士の呼びかけと話し合いの初期に動機づけをしっかりと行うことが重要であると考えた。

また話し合いへの住民の参加態度については、1回目では行政への要望を中心とした発言だったが、話し合いの方法の理解が深まるにつれて「行政だけではなく、家族や周りの者の協力が必要」など住民の役割を意識したものへと変化した。

## ③ 「住民とともに健康づくりを考える話し合い」への理解について

質問紙調査の結果では、行政と住民が1つのテーブルで「地域の理想の姿を考える」という話し合いの方法について、参加した住民全員が興味を持ち大切だと感じていた。しかし、興味は持てたが「あまり参加したくない」という人もみられた。このことは、住民は「話し合いの方法」に対して興味を持ち大切だと感じる段階までは来たものの、3回という回数の中では、全員が方法を理解し、更に実践しようという段階までは至らなかった、と推測された。

しかし発言内容の分析から、手順をわかりやすく説明しながら話し合いを継続していけば、この話し合いの方法への理解もすすみ、それが「行政と一緒にやって行く健康づくりの話し合い」への参加意識を高めることにもつながるのではないかと考えた。

## 2. 学生の意識の変化

### (1) 方法

話し合いの前後に学生が①健康の概念、②住民参加、③地域づくり型保健活動に対するとらえ方、について自由記載を行った。①については、ヘルスプロモーション<sup>1)</sup>で述べられている健康の概念のうち6つの点(身体、精神、社会、生き方、地域、環境)に関し、記載の有無を見た。②については住民に関する点、行政に関する点、住民・行政双方に関する点から分析を行った。③については活動全般、および活動の特徴である、システム論的問題解決方法、住民参加の3つの視点に関し、捉え方の変化を文献<sup>2)</sup>から作成した認識変化モデルを用いて検討した。このモデルでは、認識を「興味」「理解」「支持」「行動」と変化するものと仮定した。

### (2) 結果及び考察

#### ① 「健康の概念」の意識変化

話し合い後、生き方まで考えるようになり、個人の健康

から環境や地域の健康まで広がりがみられた。また抽象的なものから具体的なものへと深まりを見せた。

#### ② 「住民参加」の意識変化

漠然としたイメージであったものが具体的になり、行政と住民の双方が動くことが表現されるようになった。また住民主体という言葉が多く記載されるようになり、住民の生活の視点から捉えられるようになった。さらに住民と目的を確認し合うこと、それを施策にまで生かすことにも気がついた。これらのことから宮坂らの「企画またはプランニングからの参加」<sup>3)</sup>という住民参加の概念に近づけたといえる。

#### ③ 「地域づくり型保健活動」に対するとらえ方

活動全般に対しては、話し合いの前は「興味」がほとんどであったのに対し、話し合い後は「理解」「支持」に変化した。システム論的問題解決方法に対しては、話し合いの前は「興味」だったが、話し合い後は「理解」「支持」に変化した。住民参加については、話し合いの前から「理解」があり、話し合い前後の変化はなかった。これらの結果から、話し合いを通じ地域づくり型保健活動への認識が深まったと言える。

### 3 基盤条件

以上のように、住民及び学生の双方に意識の変化がみられたが、目指している「地域の健康づくり」に達しているとは言い難い。しかし活動が進むにつれ、さらに意識は変化すると考えられる。そこでこの活動を有効かつ効率的に進めるための要因(基盤条件)について検討した。

活動終了後、学生の自由記載、スタッフへの聞き取り調査から必要な条件について分析を行った。その結果、実施者側の目的意識、地域の特性をふまえての行動、適切な機能分担と連携体制、話し合いの手順の理解、スーパーバイザーの存在、の5つの条件にまとめられた。

実施者側の目的意識とは、実施者側の動機づけや目的意識の共有、事業に対する長期的展望を持つことの重要性を表す。また地域の特性をふまえての活動とは、地域の実態把握、すなわち地域住民のニーズを把握することの必要性を表す。さらに適切な機能分担と連携体制とは実施者間の役割分担、バックアップ体制、関係機関との連携を表す。これらはどのような活動を行う際にも重要であるが、今回の場合は特に何のためにこの方法を用いるのか、目的意識をしっかりと持つことが重要であると考えられた。

## 参考文献

- 1) 島内憲夫訳：ヘルスプロモーション・WHO・オタワ憲章，垣内出版，1990
- 2) Sundsvall Statement on Environments WHO, 1991
- 3) 岩永俊博：地域づくり型保健活動のすすめ，医学書院，1995
- 4) 庄司和晃：認識の三段階連関理論，季節社，1997
- 5) 古畑和孝：人間関係の社会心理学，サイエンス社，1996
- 6) 宮坂忠夫：地域保健と住民参加，第一出版，1983